

美波町4例目は、初の「兄弟揃ってデュアルスクール」

1月13日～26日、日和佐小学校では東京都町田市から、デュアルスクール制度を活用した2名の児童を受け入れました。

児童たちの父親が勤務する会社が美波町にサテライトオフィスを開設したのは2017年5月。それから度々業務で訪れ、自然豊かな美波町を子ども達にも満喫して欲しいと思ったのがきっかけだそうです。

両親と小学3年生、5年生の兄弟の家族4人で住居一体型のサテライトオフィス施設に2週間滞在。子ども達は家から歩いてすぐの所に海があることにびっくりし、大はしゃぎだったと言います。

平日の放課後に町を散策するなど家族でゆったり過ごす時間も楽しんだそうですが、日が経つにつれ、子ども達だけで地元の同級生と外遊びに出ることも多くなったのだとか。

「不安ありましたが、初日から楽しい学校生活になったようです。地元の皆さん、特にお子さん方の気づかいのおかげです。」と、ご両親は嬉しい感想を語ってくださいました。



初登校日。緊張しながらも、しっかりした様子で全校児童へご挨拶。



期間中に開かれたIoTセミナーの様子。

全国ネットから海外まで。メディアが美波の地方創生を取材

1月下旬～2月上旬にかけ、テレビ東京、韓国放送公社KBSが美波町に滞在。サテライトオフィス企業や移住者、影治町長へのインタビューなど美波町が取り組む地方創生への取材が行われました。

「今、韓国ではソウルへの一極集中、地方の疲弊が大きな問題となっています。若者や地方関係者の意識改革となるような事例を探していた中で見つけたのが美波町でした。地方創生への取り組みが非常に先進的で魅力的だと感じましたが、一番驚いたのはそれを成したのが人口約7000人、高齢化率45%を超える小さな町だったことです。」

KBS東京支局特派員・李氏は取材の動機をこの様に語り、「実際に訪れてみて更に驚いた。受け入れる側、地元住民の温かさ、寛容さは想像以上だった。」と付け加えました。

今回は韓国内のみでの放送になりますが、「KBS特派員現場報告ー世界は今」というプライムタイムの報道番組で全国に向けて発信されるそうです。



KBSは阿波踊り「うしお連」の練習に参加する移住者を取材。

お知らせ

美波町の地方創生に関する新聞記事や雑誌が以下の場所でご覧いただけます！

日和佐地区：日和佐図書・資料館1階

由岐地区：由岐ふれあいホール(ぽっぽマリリン2階)

次回、HWS STU DIOの山崎一平さんにお願いたします。

最近では日和佐八幡神社のHPを作成し、奉納させていただきます。これからもっとたくさんの方々と深く関わっていきたく思います。

この町で築けた様々な方とのつながりのおかげで仕事面でも自信を持つことができるなど、感謝することがあります。

さらに数年後、紆余曲折を経てこの美波町でWEBデザイナーとして起業することになり、今まで以上に町の人たちと交流を深める機会が増えました。

それからというもの、田舎の自然と空気を生かすように一度は美波町を訪れるようになりました。

はじめは美波町に来たのは10年前のお盆。人生初のバイクを買い、人生初の遠出に阿波踊りを選びました。

そのまま美波町日和佐地区まで足をのび、着いた頃には真夜中。都会とは違う街並み、オレンジの街灯に照らされ並ぶ古民家、虫やカエルの鳴き声に「田舎の夏休みに来た」という感覚でいっぱいになりました。

株式会社まのそうデザイン
代表取締役 ドウゾノ セイヤ
リレーコラム15
美波町は大人の夏休み